

資料番号	1
------	---

令和6年8月19日  
 課名 教育委員会事務局  
 教育改革課  
 担当者 課長 今川  
 内線 4892

新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について

1 要旨

令和6年度入学者選抜において実施した、新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度（以下「新制度」という。）について、公立中学校・高等学校等を対象に実施したアンケートの結果等を踏まえ、成果と課題を整理した。（詳細は別添のとおり）

2 背景

○ 「広島県の15歳の生徒にどのような力を付けさせたいか」という観点から、公立高等学校入学者選抜制度の改善を行うこととし、令和5年度入学者選抜から実施している。

【広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力】

○ 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力

【新しい入学選抜制度のポイント】

- ① 主体的な志望校選択の実現
  - ・各高等学校の学科・コースの特色に応じて、「特色枠による選抜」を実施  
 「一般学力検査：調査書：自己表現」の配点の比重を各高等学校が設定可能
  - ・傾斜配点、活用教科の設定、学校独自検査を各高等学校が実施可能
  - ・一般枠による選抜の配点の比重は「一般学力検査：調査書：自己表現＝6：2：2」
  - ・教育目標や入学者選抜の実施内容を記載した入学者選抜実施内容シートを全校が公表
- ② 調査書の簡素化
  - ・調査書に記載する内容は「学習の記録（評定）」のみに変更  
 欠席日数、教員の所見欄（特別活動の記録、スポーツ・文化・ボランティア活動の記録等）などは削除
  - ・学習の記録（評定）の学年間の比重は「第1学年：第2学年：第3学年＝1：1：3」
- ③ 入学者選抜に係る期間の短縮
  - ・選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を統合し、「一次選抜」として実施
  - ・一次選抜を2月下旬に実施（旧選抜（Ⅰ）は2月上旬、旧選抜（Ⅱ）は3月上旬実施）
- ④ 受検者全員に「自己表現」を実施
  - ・受検者全員に自分自身のことを表現する「自己表現」を実施

○ 検証のためのアンケート

- ・ 実施時期：令和6年5月～6月
- ・ 対象：併設型中学校を除く全公立中学校等（229校）  
 一次選抜を実施した全公立高等学校（88校）  
 全市町教育委員会（23市町）  
 公立高等学校第1学年生徒（14,530人のうち10,768人が回答）

### 3 概要

- ・ 「自己表現」の実施により、中学校において自己を省みることや将来を考えること、表現活動の更なる充実につながっているという意見がある。一方で、令和5年度から新たに受検者全員に「自己表現」が導入されたことで、受検者及び中学校の教員並びに高等学校の教員にとって負担があるという声が、中学校・高等学校それぞれのアンケート結果にあることから、様々な機会を通じて自己表現の実施の必要性を引き続き周知するとともに、効率的な実施方法について検討していく必要がある。
- ・ 自己表現カードについては、令和6年度入学者選抜から記入の時間を短くしたものの、いまだ受検者及び教員が負担に感じているといった声が多いこと、カード以外にも自己表現の内容を整理した資料の持込を可能としており、代替が可能であることなどを踏まえ、令和7年度広島県公立高等学校入学者選抜より、作成及び提出を行わないこととする。
- ・ 調査書については、記載する内容は学習の記録（評定）のみとし、欠席日数の記載や教員の所見欄を削除するなど簡素化を行ったことにより、中学校においては生徒が調査書の記載内容について気にしすぎることがなくなっており、高等学校においては全ての受検者に対して公平・公正に評価することにつながっているという声がある。
- ・ 一次選抜の日程については、様々な立場の考え方があり、総合的に判断する必要があることから、市町教育委員会、知事部局、公立・私立高等学校及び中学校関係者と連携し、継続的に検討する。

# 新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について

令和6年8月19日  
広島県教育委員会

## 1 はじめに

本県では、「広島県の15歳の生徒にどのような力を付けさせたいか」という観点から、公立高等学校入学者選抜制度の改善を行い、令和5年度入学者選抜から実施している。また、令和5年度入学者選抜の成果と課題を検証した結果を受けて、令和6年度入学者選抜では運用上の改善を図るとともに、一部の課題については継続的に検討することとしたところである。

この度、令和6年度入学者選抜（秋季入学のための選抜を除く。）を実施したことを受けて、公立中学校・高等学校等に対して実施したアンケートの結果等を踏まえ、新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について整理した。このまとめを踏まえ、今後も引き続き、広く御意見を頂きながら、よりよい公立高等学校入学者選抜の実施に努めてまいりたい。

### 【広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力】

- 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力

### 【新しい入学者選抜制度のポイント】

- ① 主体的な志望校選択の実現
  - ・各高等学校の学科・コースの特色に応じて、「特色枠による選抜」を実施  
「一般学力検査：調査書：自己表現」の配点の比重を各高等学校が設定可能
  - ・傾斜配点、活用教科の設定、学校独自検査を各高等学校が実施可能
  - ・一般枠による選抜の配点の比重は「一般学力検査：調査書：自己表現＝6：2：2」
  - ・教育目標や入学者選抜の実施内容を記載した入学者選抜実施内容シートを全校が公表
- ② 調査書の簡素化
  - ・調査書に記載する内容は「学習の記録（評定）」のみに変更  
欠席日数、教員の所見欄（特別活動の記録、スポーツ・文化・ボランティア活動の記録等）などは削除
  - ・学習の記録（評定）の学年間の比重は「第1学年：第2学年：第3学年＝1：1：3」
- ③ 入学者選抜に係る期間の短縮
  - ・選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を統合し、「一次選抜」として実施
  - ・一次選抜を2月下旬に実施
- ④ 受検者全員に「自己表現」を実施
  - ・受検者全員に自分自身のことを表現する「自己表現」を実施

## 2 公立中学校・高等学校等に対するアンケートについて

### (1) 目的

令和5年度入学者選抜において一部運用の改善を行い、令和6年度入学者選抜において実施した「新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度」の検証のため、成果と課題について、公立中学校・高等学校等にアンケートを実施する。

### (2) 対象、期間及びアンケートの結果

#### ア 対象

併設型中学校を除く全公立中学校等、一次選抜を実施した全公立高等学校、全市町教育委員会及び公立高等学校第1学年生徒

#### イ 期間

令和6年5月～6月実施

#### ウ アンケートの結果

別紙のとおり。

### 3 成果と課題について

#### (1) 主体的な志望校選択の実現について

##### (実施内容シート)

高等学校第1学年生徒に対して、「志望校を選択する際に、影響を与えたもの」を聞いたところ、アンケートに回答した者の81%が、「教育目標や育てたい生徒像」など実施内容シートに含まれる情報を基に志望校選択を行っており、実施内容シートの公表は中学生の主体的な志望校選択において効果的であるといえる。

一方で、実施内容シートの取扱について、中学校の83%が、進路相談等において実施内容シートを生徒に提示していると回答し、高等学校第1学年生徒の63%が、中学校で実施内容シートの紹介があったと回答しており、中学校と生徒の間で認識のずれがある。

このことから、中学生の一層の主体的な志望校選択の実現のため、中学校内の進路ガイダンスや進路学習等で、実施内容シートの紹介や比較する活動等を行っていただくよう、中学校と連携を行っていく必要がある。

##### (特色枠による選抜)

特色枠による選抜については、特色枠を設定することで、高等学校がどのような生徒を求めているかを受検者に示すことができることにつながっている。特色枠を設定している高等学校のほとんどが、特色枠による選抜の内容について、中学校や中学生・保護者に対して、オープンスクールや中学校訪問等で周知している。

一方、特色枠による選抜については、定員に対して受検者が一定数いないと特色枠が実質機能しない、特色枠による選抜の結果が一般枠による選抜方法を当てはめた場合と変わらない、現制度では学校が入学者受入方針に沿った選抜ができていないといった意見が一部あることなどから、今後、各高等学校の特色をより引き出すことができるように、各校における検討を促すとともに、県教育委員会としても実態を把握し、必要に応じて改善を検討していく必要がある。

#### (2) 調査書の簡素化について

調査書について、記載する内容は学習の記録（評定）のみとし、欠席日数の記載や教員の所見欄を削除するなど簡素化を行ったことにより、中学校においては生徒が調査書の記載内容について気にしすぎることがなくなっており、高等学校においては全ての受検者に対して公平・公正に評価することができたとの声がある。

特に、欠席日数の記載を削除したことにより、様々な理由で欠席日数が多い生徒にとっては不安がなくなるとともに、中学校・高等学校において、事務処理作業が効率化されたと評価する意見が多くあった。

一方で、高等学校から、入学者選抜とは関係はないが、今まで調査書の記載事項から得ていた入学後に必要な生徒に係る情報を得るための工夫が必要との意見があり、入学者選抜後に実施している中高連携の実態を把握し、実施時期や在り方等を検討していく必要がある。

#### (3) 入学者選抜に係る期間の短縮について

期間を短縮したことにより、教育活動の充実につなげることができたかという設問に対して、高等学校の53%、中学校の65%が、肯定的に回答している。理由として、2月上旬に実施していた選抜（Ⅰ）に係る準備から実施までの業務が削減されたことで教員の負担の軽減につながり、その分を教育活動の時間に費やすことができたといった意見が挙げられている。

一方で、高等学校の21%が否定的に回答しており、理由として、2月下旬に実施している一次選抜に係る検査の実施及び採点に係る期間中に在校生が自宅学習になるなど、教育活動が滞るといった意見が挙げられている。

また、2月下旬に実施している一次選抜の時期については、高等学校の約67%が2月中旬以前を希望し、中学校の約96%が2月下旬以降を希望している。選抜日程の在り方については、それぞれの立場で意見が異なっており、引き続き慎重に検討を行っていく必要がある。

(4) 受検者全員に「自己表現」を実施  
(自己表現)

高等学校第1学年生徒でアンケートに回答した者の94%が、「自己表現について、検査当日に、自分なりに表現すること」が、「十分にできたと思う」又は「それなりにできたと思う」と回答しており、自己表現の出来に関して手ごたえを感じている受検者が多く、受検者の達成感につながっていると推察される。また、「自己表現」の実施により、中学校において自己を省みることや将来を考えること、表現活動の更なる充実につながっているという意見がある。さらに、高等学校においても、夢が明確になって入学しているので、探究学習につながりやすいといった声もあった。

一方で、令和5年度から新たに受検者全員に「自己表現」が導入されたことで、受検者及び中学校の教員並びに高等学校の教員にとって負担があるという声が、中学校・高等学校それぞれのアンケート結果にあることから、様々な機会を通じて自己表現の実施の必要性を引き続き周知するとともに、効率的な実施方法について検討していく必要がある。

(自己表現の評価)

自己表現の評価については、評価の観点の評価規準と合わせて全校共通としたこと、評定は4点を基準とし、評価の観点ごとに5点、4点、3点のいずれかで評価することとしたことにより、高等学校の81%が、校内での評価基準の統一に役立ったと肯定的に回答している。

引き続き、令和6年度入学者選抜の経験を生かして、高等学校における研修を充実させるなどして、理解の徹底や各高等学校の評価基準の精度の向上を図っていく。

(自己表現カード)

自己表現カードについては、令和6年度入学者選抜において、受検者及び高等学校の負担軽減を図る観点から、一次選抜第1日の記入の時間を30分間から15分間に短縮した結果、受検者の負担軽減の効果については、高等学校の56%、中学校の67%が、肯定的に回答している。一方で、高等学校における負担軽減の効果については、肯定的な回答が39%に留まっており、時間は短縮されたものの、自己表現カードの記入の時間があることに変わりはなく、引き続き教員の負担が残っているとの声がある。

また、高等学校第1学年生徒でアンケートに回答した者のうち、実際に自己表現カードを使用した者は26%に留まった。

自己表現カードの取扱については、高等学校と中学校のそれぞれ59%と41%が「作成及び提出しない」、27%と12%が「事前に作成及び提出する」が適切であると回答している。

自己表現カードについては、これまで、受検者が自己表現を行うに当たって、内容やシナリオ、考え方などを整理するための補助的な資料として作成・提出することとしていたものであるが、自己表現カード自体は入学者選抜の評価対象ではなく、書く必要がない者は書かなくてもよいこととしており、また、自己表現カード以外に話す内容を記載したものを持ち込むことができることとしている。

こうした状況を踏まえ、受検者及び高等学校の負担を一層軽減する観点から、自己表現カードの取扱について検討する必要がある。

(質問の在り方)

自己表現の検査における質問については、令和6年度入学者選抜において、受検者の自己表現を一層引き出し、自己表現の充実を図る観点から、実際の自己表現の内容に即したやり取りとなるよう、自己表現の検査における質問の在り方を改善した。

このことについて、高等学校第1学年生徒でアンケートに回答した者のうち「回答しにくかった」と回答した者が21%に留まっており、個々の受検者の状況に応じた質問ができるようになってきているものと考えられる。一方で、検査官が質問の内容を工夫することが必要となるといった声もあり、令和6年度入学者選抜の経験を生かして、高等学校における研修を充実させるなどして精度の向上を図っていく必要がある。

#### 4 今後の改善について

(1) 令和7年度入学者選抜から変更するもの

自己表現カードについては、使用している受検者が26%に留まること、令和6年度入学者

選抜から記入の時間を短くしたものの、いまだ受検者及び教員が負担に感じているといった声が多いこと、カード以外にも自己表現の内容を整理した資料の持込を可能としており、代替が可能であることなどを踏まえ、令和7年度広島県公立高等学校入学者選抜より、作成及び提出を行わないこととする。

なお、自己表現カードを使用している受検者もいることから、自己表現検査時の持込可能物品について、改めて周知する。

(2) 継続的に検討する事項

- 特色枠による選抜について、各学校の学科・コースの特色に応じた選抜としてより一層機能していくよう、実態を把握し、必要に応じて特色枠の枠組等の改善を検討していく。
- 一次選抜の日程について、様々な立場の考え方があり、総合的に判断する必要があることから、市町教育委員会、知事部局、公立・私立高等学校及び中学校関係者と連携し、継続的に検討する。

## 新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について ～高等学校に対するアンケートの結果～

令和6年度広島県公立高等学校入学者選抜において実施した、新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について、高等学校に対して行ったアンケートの結果は、次のとおりである。

### ■ アンケートの期間及び校数

令和6年5月17日（金）から令和6年6月17日（月） 一次選抜を実施した公立高等学校全88校

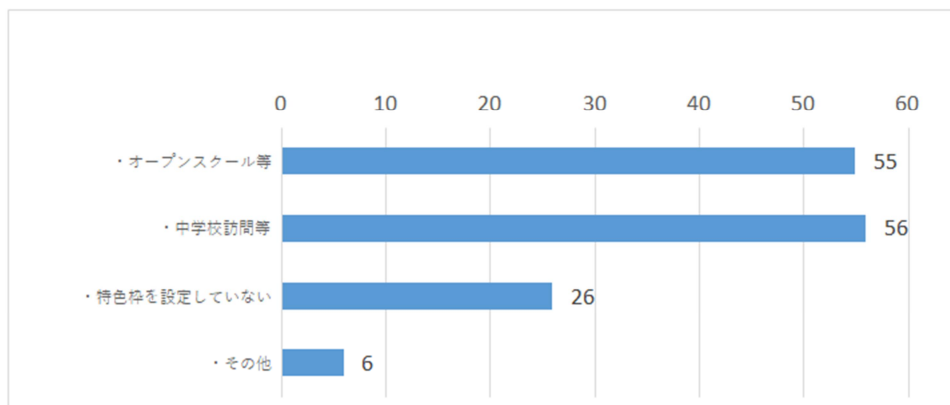
### ■ アンケートの設問及び結果

#### § 1 主体的な志望校選択の実現

#### ◆ 各高等学校が、学科・コースの特色に応じて実施する「特色枠による選抜」について

- 1 各高等学校が、特色枠による選抜により、「一般学力検査：調査書：自己表現」の配点の比重を設定したり、傾斜配点や活用教科を設定したりすることができるようにしました。

特色枠による選抜の内容について、中学校や中学生・保護者に対してどのように周知していますか。（複数回答可）



- 2 1で「その他」を選択した場合は、内容を具体的に記入してください。

- ・ 学校のホームページによる公開のみ（5件）
- ・ 商業施設で行った一律学校合同説明会

- 3 「主体的な志望校選択の実現」について、上記以外に成果と課題等があれば記入してください。（主な回答）

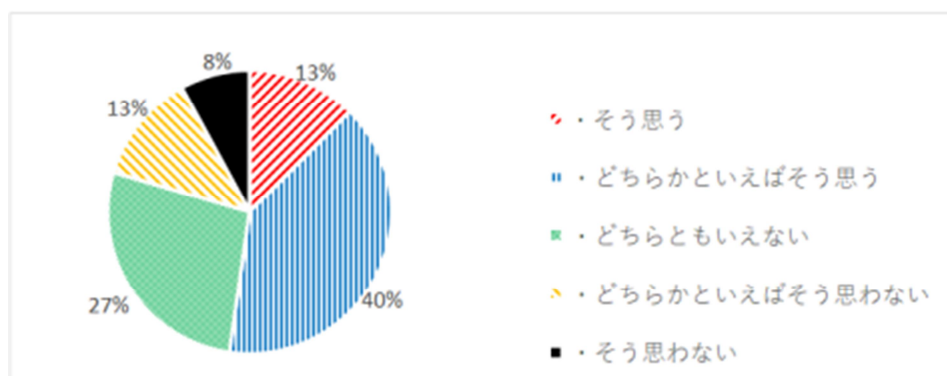
- 特色枠を設定することで、どの様な生徒を求めているか、各高校からのメッセージが明確になっていると感じる。
- 特色枠については、各校の考えが反映されており、中学生にとっても学校選択の要素になったと思う。
- 募集人数に対して、受検者が一定数いないと特色枠が実質機能しない。
- 特色枠を設けても、結果的には一般枠だけで選抜した場合と合格者は変わらない。
- 特色枠の設定について、全県共通の縛りが多いため、入学者選抜において本校の特色を打ち出す制度にはなっていない。

## § 2 調査書の簡素化

- 4 「調査書の簡素化」について、成果と課題等があれば記入してください。（主な回答）
- 全ての受検者に対して、公平・公正に評価することができた。
  - 中学時代に様々な理由で欠席が多いことが主たる原因で成績不振だった受検者の学習に対する意欲を適切に評価できたと考える。
  - 調査書に関する事務処理作業は効率化した。
  - 入学後配慮の必要な生徒に係る情報を得るための工夫が必要となった。
  - 中学校在籍時に取り組んだ部活動の実績等について評価することが困難である。

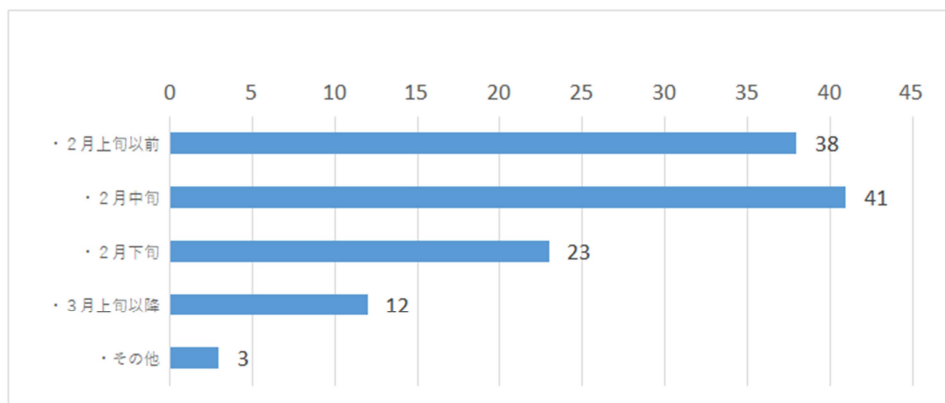
## § 3 入学者選抜に係る期間の短縮

- 5 令和5年度入学者選抜より、2月上旬に実施していた選抜（Ⅰ）と、3月上旬に実施していた選抜（Ⅱ）を統合し、2月下旬に一次選抜を実施しました。  
入学者選抜に係る期間を短縮したことにより、各高等学校において、授業時数の確保など、教育活動の充実につなげることができたと思いますか。



- 6 5で答えた具体的な理由等があれば記入してください。（主な回答）
- 入学者選抜に係る時間が短縮されたことで、個の生徒に対応する時間の確保ができた。
  - 準備から実施まで業務が1回削減されたことで、教員の負担の軽減につながった。その分を日々の教育活動の時間に費やすことができた。
  - 自己表現等の実施日程や採点日等の全日程（日数）を考慮すると、授業時数確保にはつながっていない。
  - 本校の場合、自己表現の実施に2日間を要し検査期間が3日となる。またこの間一般学力検査の採点は一切できないため、採点と点検・確認でさらに2日間を要し、在校生は丸々1週間の自宅学習となる。
  - 一次選抜、学年末考査及び卒業証書授与式の日程が近いため、業務が集中する。
- 7 一次選抜の実施時期を2月下旬としたことについては、公立・私立高等学校全体の入学者選抜の日程を踏まえて、中学校、高等学校など様々な立場の意見を勘案して設定しました。  
希望する一次選抜の実施時期はいつですか。（複数回答可）



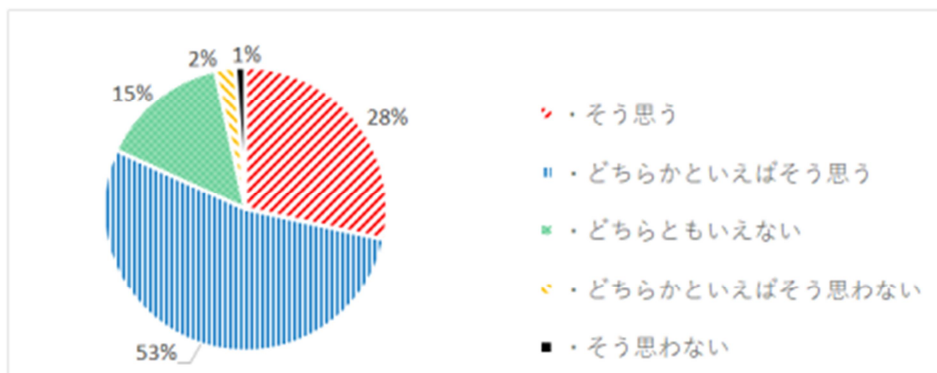


- 8 7で「その他」を選択した場合は、内容を具体的に記入してください。
- ・ 私立高校の入試日程を意識して推薦入試を実施してほしい。
  - ・ 一次選抜(特色枠)を2月上旬、二次選抜(一般枠)を3月上旬の2回に分ける。
  - ・ 以前の選抜スタイルが良い。
- 9 7で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)
- (2月中旬以前)
- ・ 私立学校への入学手続きを完了させた後に県立学校が一次選抜を実施していたのでは、主体的な志望校選択につながらないとする。
  - ・ 2月中旬以前であれば、その後の学年末考査、卒業証書授与式、学年末成績処理などの業務が比較的余裕をもって進めることができる。
  - ・ 入学者選抜は早期に実施し生徒確保につなげ、安定した日程で卒業証書授与式を挙行したい。
- (2月下旬以降)
- ・ 卒業式や学年末考査などの学校行事と重ならない方がよく、2月は3年生の進路指導もあることから、それらが終わった後がよい。
- 10 「入学者選抜に係る期間の短縮」について、上記以外に成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)
- 5教科の学力検査と自己表現カードの記入を1日で行うため、運営側、受検者側双方の負担が大きい。
  - 学力検査が丸1日になって、中学生の負担が大きいのではないかと。また、その日の採点ができないため、採点時間の確保が課題である。

#### § 4 受検者全員に「自己表現」を実施

##### ◆ 自己表現の評価について

- 11 評価の観点を「自己を認識する力」「自分の人生を選択する力」「表現する力」の三つとし、その評価規準と合わせて全校共通としました。また、評定は4点を基準とし、評価の観点ごとに5点、4点、3点のいずれかで評価することとしました。
- このことは、校内での評価基準の統一に役立ったと思いますか。



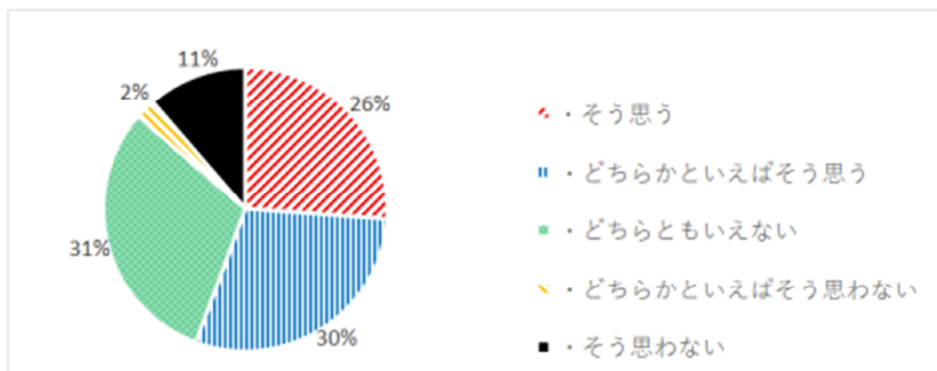
12 11 で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

- 「自己表現」の評価者として、多くの教員が担当するため、評価の観点及び評価規準が全校共通で示されたことは、入試の公正性を保つ上で役に立っていると思われる。
- 校内研修の際に、評価規準を用いて評価を行い、意見を交流することで、校内での評価基準の統一につながった。
- 3段階の評価としたことで、評価基準の明確化が容易となることに加え、評価者による点数のばらつきが最小限に抑えられる。
- 基準については、実際には規準の幅広い解釈を共有する必要があり、研修等に時間がかかった。

◆ 令和6年度入学者選抜において自己表現で改善した点について

13 自己表現カードの記入の時間を30分間から15分間に短縮するとともに、自己表現カードの様式を改訂しました。

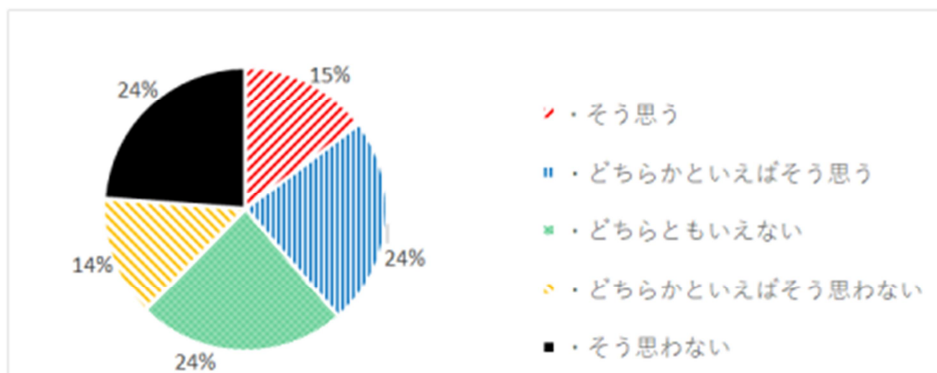
このことにより、受検者の負担軽減を図ることができたと思いますか。



14 13 で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

- 前年度と比べ全体の終わりが早くなった。
- 記入時間、分量ともに減ったため、受検者の負担は軽減されたと感じる。
- 1日5教科に加え、自己表現カードを記入することに変わりはない。
- 評価に自己表現カードの記述内容が関係ないので、そもそも自己表現カードを記入しなくてもよいのではないかと感じた。面接のように検査本番に表現してもらえばいい。

15 このことにより、高等学校の負担軽減を図ることができたと思いますか。

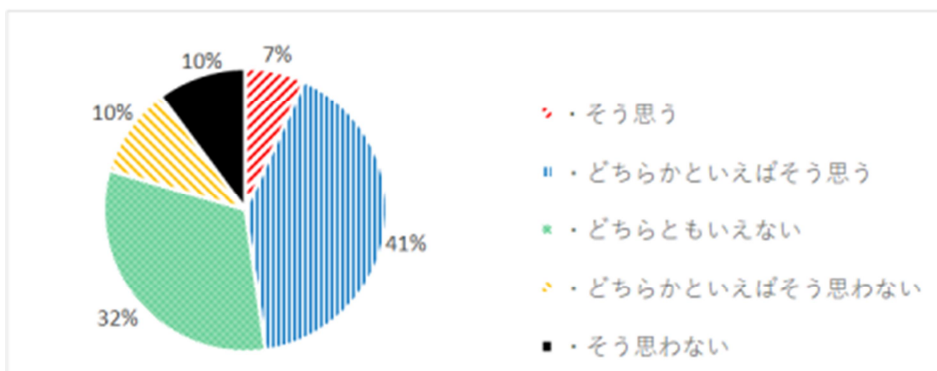


16 15 で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

- 時間が短縮されたことは、教員の負担軽減につながったと思われる。
- 自己表現カードを取り扱う関連の業務は、記入時間を短縮しても減るわけではないので、自己表現カードの記入そのものをなくしてよいと考える。
- 時間は短くなったが、記入の時間は確保されているので、監督業務は必要であり、負担はあまり変わらない。

17 自己表現の検査における質問の在り方について改善しました。

このことは、受検者が実施した自己表現の内容を補うことに役立ったと思いますか。



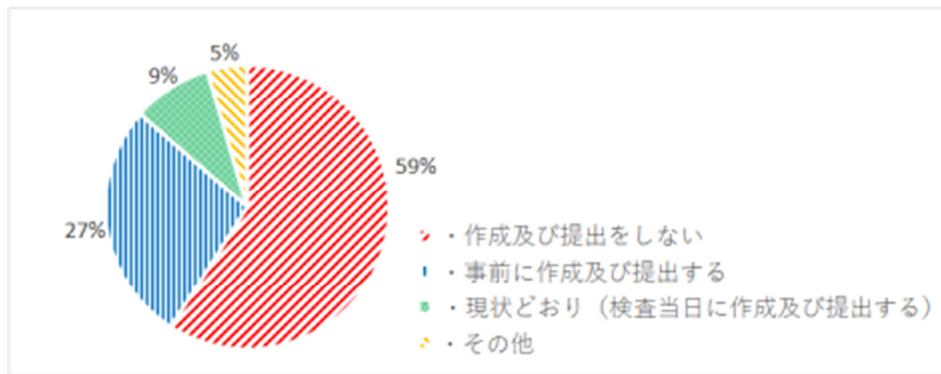
18 17 で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

- 受検者が表現したかったことを、具体的に聞くことができた。
- 個々の受検者の状況に応じた質問ができた。
- 一つの質問では、深堀するのは難しい。
- 質問の内容を工夫する力が必要となる。

◆ 自己表現カードの取扱いについて

19 受検者が自己表現を行うに当たって、補助的な資料として作成する自己表現カードについては、昨年度、提出方法の変更等についての意見がありました。

自己表現カードの取扱いについて、どれが適切だと思いますか。



20 19で「その他」を選択した場合は、内容を具体的に記入してください。（主な回答）

- ・ どんなことを話すのか、事前にタイトルを聞いておく。
- ・ 中学校での作成は任意とし、高校への提出は求めない。
- ・ このことで、1日5教科の学力検査を行うことの、受検者の負担減にはならない。

21 「受検者全員に「自己表現」を実施」したことについて、上記以外に成果と課題等があれば記入してください。（主な回答）

- 学校独自検査（面接）よりも、受検者がそれまでにながらぶことや将来の夢を知ることができる。夢が明確になって高校に入学しているので高等学校での探究学習につながりしやすい。プレゼンテーション能力が身に付いている。
- 生徒が自分の興味あることや意見について、学校側に伝え、それが評価されているという意識を持つことができる。
- 受検者が中学校3年間を振り返り、自己肯定感を高めることにつながっていると考えられる。
  - 受検者及び中学校・高等学校の教員にとっての負担が大きい。
  - 受検者全員に対して一律に「自己表現」を実施することは、実施側の大きな負担となる。
  - 5教科の学習に加えて、受検生の負担が大きい割には、点数の差があまり付かないところが課題である。

## § 5 その他

### ◆ 総括

22 入学者選抜全般について、上述以外に成果と課題等があれば記入してください。（主な回答）

- 受検者の学力だけではなく、自己を認識する力などを総合的に評価して合否を決めることは選抜の方法として望ましいと思われる。
- 「特色枠」で各配点を変えただけでは、本校の特色を生かした入試になっていると言えない。「選抜（I）」の際は、グループワーク等を取り入れ、本校の特色を生かした入試を行っていた。
- 自己表現の検査における教員の働き方については、受検者数・教員数の関係もあるが、きわめて厳しい状況での監督業務となっている。1日では終了できず、2日間にわたって実施している学校もあり、学力検査の採点業務も含めて教員には非常に厳しい状況を生んでいる。受検者への負担や公立離れの状況を考えると、自己表現の検査の在り方を再考すべき。

## 新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について ～中学校等に対するアンケートの結果～

令和6年度広島県公立高等学校入学者選抜において実施した、新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について、中学校等に対して行ったアンケートの結果は、次のとおりである。

### ■ アンケートの期間及び校数

令和6年5月17日（金）から令和6年6月17日（月） 併設型中学校を除く公立中学校等全229校

### ■ アンケートの設問及び結果

#### § 1 主体的な志望校選択の実現

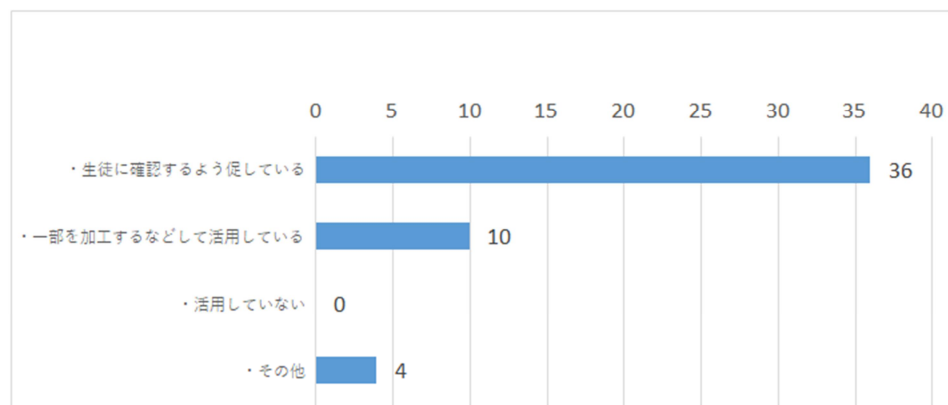
#### ◆ 全ての高等学校・学科・コースにおいて、入学者選抜実施内容シートを公表したことについて

1 全ての高等学校・学科・コースにおいて、教育目標や育てたい生徒像、入学者受入方針や入学者選抜の実施内容を記載した入学者選抜実施内容シートを事前に公表しました。

生徒が志望校を選択する際に、貴校が実施する進路相談等において、実施内容シートを生徒に提示していますか。



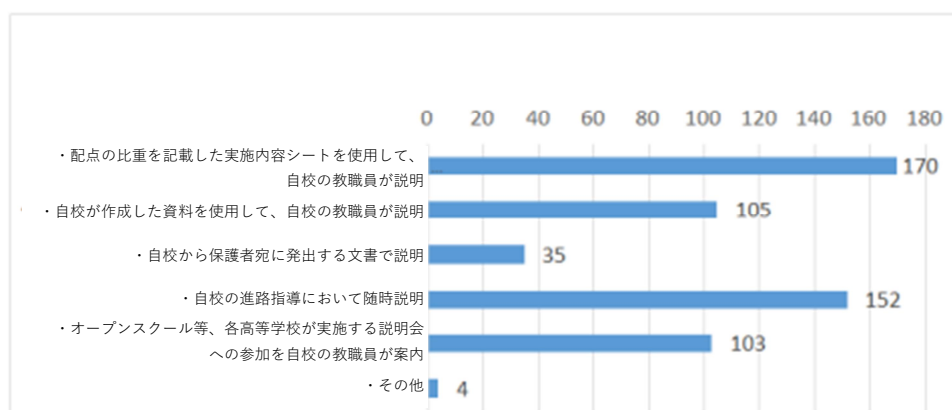
2 1で「提示していない」を選択した場合、実施内容シートの活用状況について伺います。（複数回答可）



- 3 2で「その他」を選択した場合は、内容を具体的に記入してください。
- ・ 選抜の実施内容については一覧を印刷して配布しているが、アドミッションポリシーやスクールポリシーについては、各自で確認するように促している。
  - ・ 進路説明会等で実施内容シートの記載事項を説明し、進路選択に利用するよう促した。
  - ・ 教職員が内容を確認し、適宜生徒に伝えた。
  - ・ 生徒に確認させるとともに、教員も確認し、必要に応じて生徒へ伝えた。
- 4 2で「活用していない」と答えた具体的な理由等があれば記入してください。  
【該当無し】

◆ 各高等学校が、学科・コースの特色に応じて実施する「特色枠による選抜」について

- 5 各高等学校が、特色枠による選抜により、「一般学力検査：調査書：自己表現」の配点の比重を設定したり、傾斜配点や活用教科を設定したりすることができるようにしました。  
特色枠による選抜の内容について、貴校では中学生・保護者に対してどのように周知していますか。(複数回答可)



- 6 5で「その他」を選択した場合は、内容を具体的に記入してください。
- ・ 進路説明会にて説明した。
  - ・ 生徒に確認するよう促している。
  - ・ 全てではなく大まかな例を表示して説明会を行った。また、個別に確認してもらっている。
  - ・ 質問を受けた保護者に対して、電話等で詳しく説明を行った。
- 7 「主体的な志望校選択の実現」について、上記以外に成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)
- 入学者選抜実施内容シートを活用することで、入試の制度や在り方をイメージしやすく、生徒の主体的な進路選択の助けになっていると思う。
  - 各高等学校の特色をしっかりと説明できて、進路指導にとっても参考になる。
  - 入学者選抜実施内容シートのデータ量が大きく、読込や探すのが大変なので、地区や都市ぐらゐのデータに分けてほしい。
  - 偏差値や今の自分の学力だけで、高等学校等の進路を選択する雰囲気根強くある。

§ 2 調査書の簡素化

- 8 「調査書の簡素化」について、成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)
- 欠席日数の記載がなくなり、欠席日数の多い生徒にとっては不安がなくなった。また、特別活動の記載がなくなり生徒は気にし過ぎることがなくなった。教員の負担軽減につな

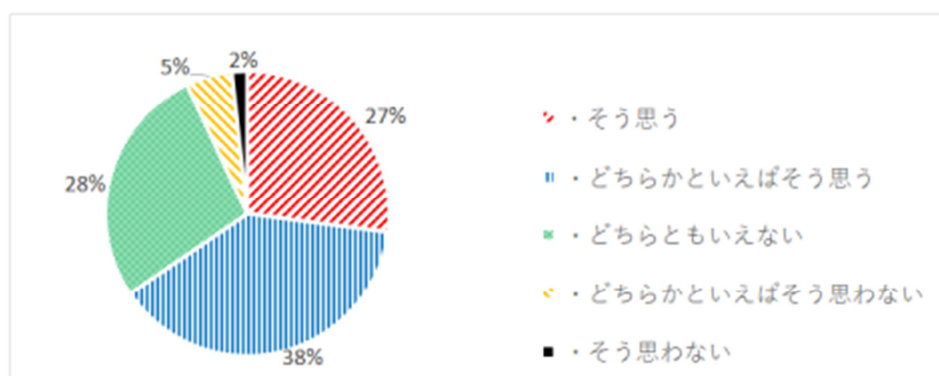
がった。

- 記入事項が削減されたことで生徒自身が自分の生活を考え、決め、選ぶことにつながっていると思う。教職員にとっては、作成や点検時間が削減できている。
- 各種検定取得状況や部活動での結果など、教科学力以外の成果が加味されないことが残念に思われる。

### § 3 入学者選抜に係る期間の短縮

- 9 令和5年度入学者選抜より、2月上旬に実施していた選抜（Ⅰ）と、3月上旬に実施していた選抜（Ⅱ）を統合し、2月下旬に一次選抜を実施しました。

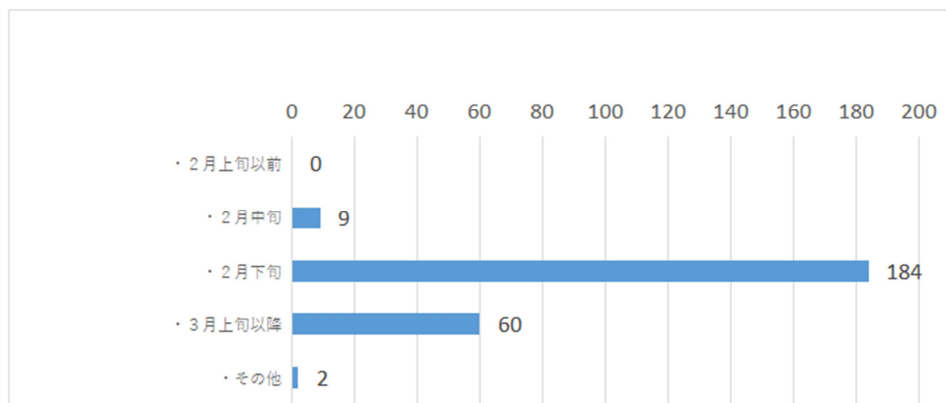
入学者選抜に係る期間を短縮したことにより、各中学校において、授業時数の確保など、教育活動の充実につなげることができたと思いますか。



- 10 9で答えた具体的な理由等があれば記入してください。（主な回答）

- 検査日が2月下旬になることで、授業時数にゆとりができた。
- 選抜（Ⅰ）が無くなった関係で、2学期中は受検に係る指導が少なくなり、2学期までは教科学力の向上に力を注ぐことができた。選抜（Ⅰ）に向けた指導、選抜（Ⅱ）に向けた指導と2つの指導を行う必要が無くなり、全員一斉の指導が可能となり、指導の質や効率が上がったと感じた。
- 入学者選抜の時期が早まり、それに伴い卒業式の時期も早くなったため、授業時数の確保等が大変であった。

- 11 一次選抜の実施時期を2月下旬としたことについては、公立・私立高等学校全体の入学者選抜の日程を踏まえて、中学校、高等学校など様々な立場の意見を勘案して設定しました。希望する一次選抜の実施時期はいつですか。（複数回答可）



- 12 11で「その他」を選択した場合は、内容を具体的に記入してください。

- ・ 併設型高等学校は2月上旬、併設型高等学校以外は2月下旬とし、2回受検が可能とするシステムにしてほしい。
- ・ 2月中旬と下旬の間がよい。

13 11で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

(2月中旬以前)

- ・ 卒業式練習等、卒業に向けた準備期間の十分な確保のため。

(2月下旬以降)

- ・ この時期以前だと卒業までに公立入試の結果が出てしまうため。この時期以降になると卒業に向けての準備・練習を入試前から取り組む必要が出てきて、入試に集中させにくくなるため。
- ・ 私立の入試と重ならなければ特に問題ないが、あまり早すぎると成績について決定しにくい。
- ・ 3月上旬になると卒業式の日程が難しくなる。

14 「入学者選抜に係る期間の短縮」について、上記以外に成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)

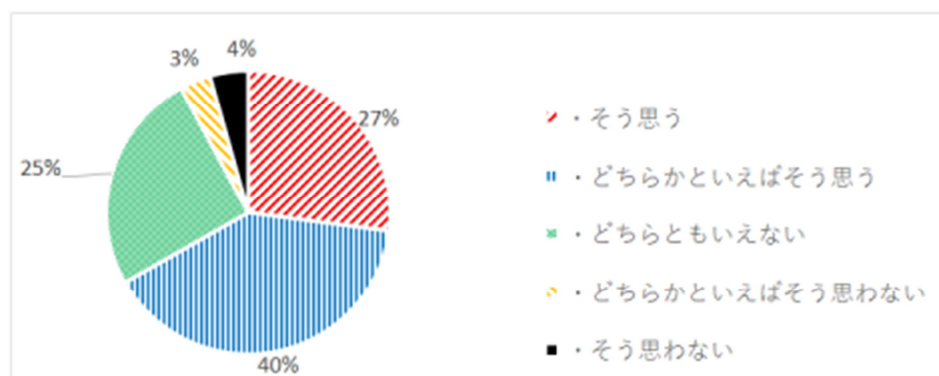
- 選抜（I）にかかる書類作成がなくなり、負担が大きく軽減された。

#### § 4 受検者全員に「自己表現」を実施

##### ◆ 令和6年度入学者選抜において自己表現で改善した点について

15 自己表現カードの記入の時間を30分間から15分間に短縮するとともに、自己表現カードの様式を改訂しました。

このことにより、受検者の負担軽減を図ることができたと思いますか。



16 15で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

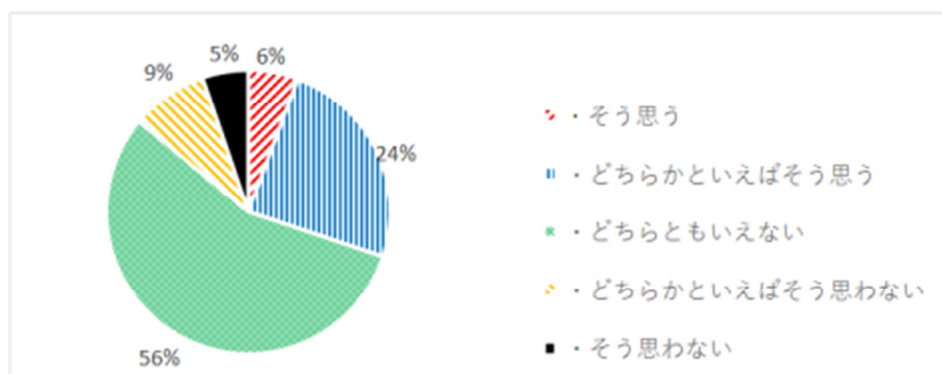
- 一昨年度の受検生より「当日の30分という時間は長かった」という声もあったため、妥当であると思う。学校でも練習を何度か行っているため、書くのはそれほど時間はかからないと思う。
- 全体の時間が少しでも短縮されたことは負担軽減になった。
- 生徒は自己表現に向けて準備をしている。自己表現カードが入試の評価に関係なく、メモ書き等で構わないということから、わざわざ時間をとって受検生の負担をかける必要はないのではないかと思います。ただでさえ、1日5教科の入試の日程になり、生徒の負担は増した。

17 自己表現の検査における質問の在り方について改善しました。

このことについて、受検した生徒から、実施した自己表現の内容を補うことに役立ったと



いう声が出ていましたか。



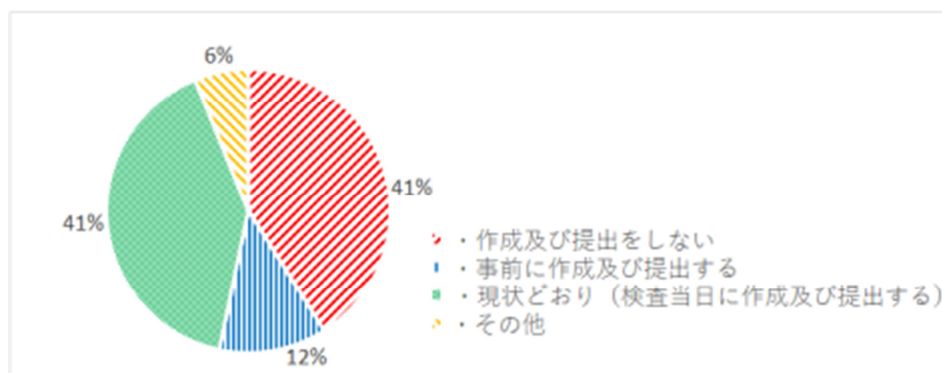
18 17で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

- 自己表現の内容を深める質問があり、「うまく答えることができた」という生徒の声が多かった。
- 答えにくい質問があった、困ったという生徒の声もあった。

◆ 自己表現カードの取扱いについて

19 受検者が自己表現を行うに当たって、補助的な資料として作成する自己表現カードについては、昨年度、提出方法の変更等についての意見がありました。

自己表現カードの取扱いについて、どれが適切だと考えますか。



20 19で「その他」を選択した場合は、内容を具体的に記入してください。(主な回答)

- ・ 希望者のみの形でよいのではないかと思います。全く無しにすると、話すことが苦手な生徒にとっては不安が大きくなることが予想できる。一方で、多くの生徒には、作成及び提出しなくても問題ない形で自己表現の準備をしていくため。
- ・ 受検する生徒にとっては、カードの記入は必要ないと思うが、高校側が事前に話す内容をざっくりとでも知っておきたいということであれば、当日の記入・提出はあっても良いかもしれない。

21 「受検者全員に「自己表現」を実施」したことについて、上記以外に成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)

- 自分を知ることや将来について考えるきっかけとなった。また、プレゼンテーションの経験を積むことで表現力の向上につながった。
- 今までの自分を振り返り、自分の人生について考え、その人生を歩んでいくために、高校で何をすべきか、自分は何をしたいのか、明確にすることができたと思う。高校をゴールとするのではなく、高校に入った後の目標や取組を表現して入学することは、生徒にと

っても大変意義があったと思う。

- 生徒の自己表現に対して中学校としてはより良いものにするためにかかわらざるをえない。
- 表現する内容が決められない生徒にとっては大変で、それを考える時間が試験勉強になってしまい、5教科の学習が後回しになった。
- 自己表現の評価に関して、客観性、妥当性が分かりにくい。

## § 5 その他

### ◆ 総括

22 入学者選抜全般について、上述以外に成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)

- 自己表現の導入はこれからの社会で求められる資質・能力を育てていくという点では成果はあると思う。面接よりもしっかりとした準備が必要となり、準備をしっかりとした生徒は自信を持って入試に臨めたと思う。
- 5教科の検査等を1日で実施するのは、中学生には負担が大き過ぎる。特に体調を崩している生徒は、午前だけで精一杯となる。事前の不安も大きい。現在は、生理痛などがひどい生徒への配慮も必要。

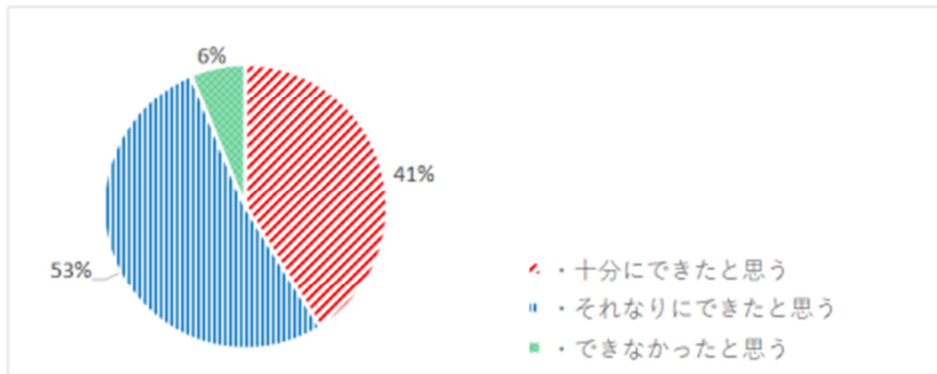
公立高等学校第1学年生徒に対する  
「自己表現」及び「実施内容シート」に係るアンケートの結果

【公立高等学校第1学年生徒（10,768人／14,530人：74.1%）】

自己表現について

1 自身が行った自己表現について

「自己表現」について、検査当日に、自分なりに表現することができたと思いますか。



2 1で答えた具体的な理由等があれば記入してください。（主な回答）

- 緊張で言葉が詰まりそうになった時もあったけど、全体的に自己表現の流れがちゃんとできていたと思うし、伝えたいことが明確になっていたので、面接官の人に自分のことをしっかりと伝えることができたんじゃないかなと思う。
- 自信持って話すことができたから
- 中学校での準備がしっかりできた
- ただ書いてきた原稿を暗記してよむだけみたいになってしまい、伝えなかったことを表しきれなかったと感じたから。
- 緊張で何を伝えているか分からなくなったから
- 準備してなくてあまりしゃべれなかったから

## 自己表現カードについて

氏名	
学号	

**自己表現カード**

- このカードは、自己表現を行う際の補助的な資料として活用するものです。
- このカードへの記載の有無、記入量が評価に影響することはありません。
- 話すことが得意でない人は、このカードに記載した内容を自己表現で活用することも可能です。

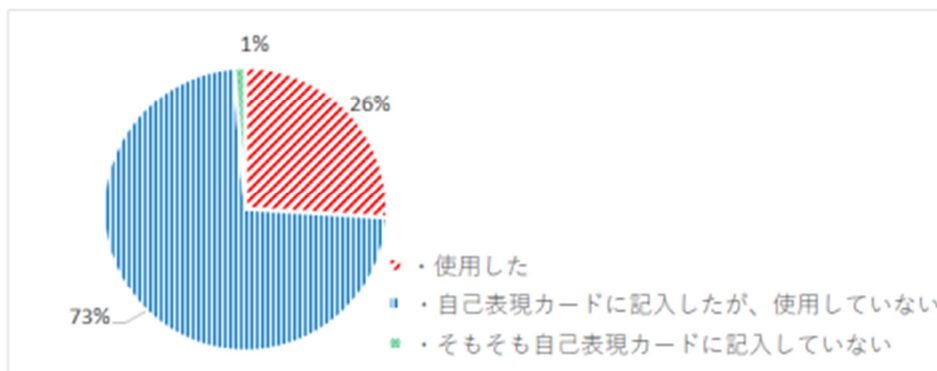
自分自身のこと（得意なことやこれまで取り組んできたことなど）や高等学校に入学した後の目標などについて、必要に応じて、自由に記入してください。

【注意】 枠の中に記入してください。枠の外や裏面に記入することはできません。

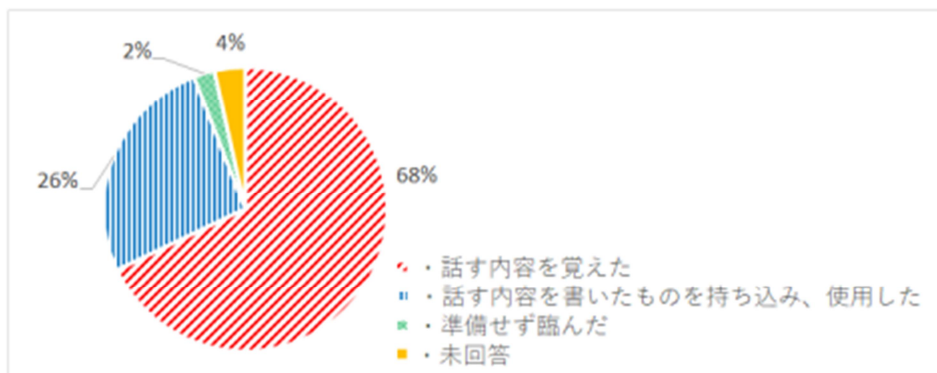
### 3 検査当日の自己表現カードについて

第1日に記入した自己表現カードは、検査当日に「自己表現」を行うに当たって、自分の手元にありました。

自己表現時に、自己表現カードを使用しましたか？

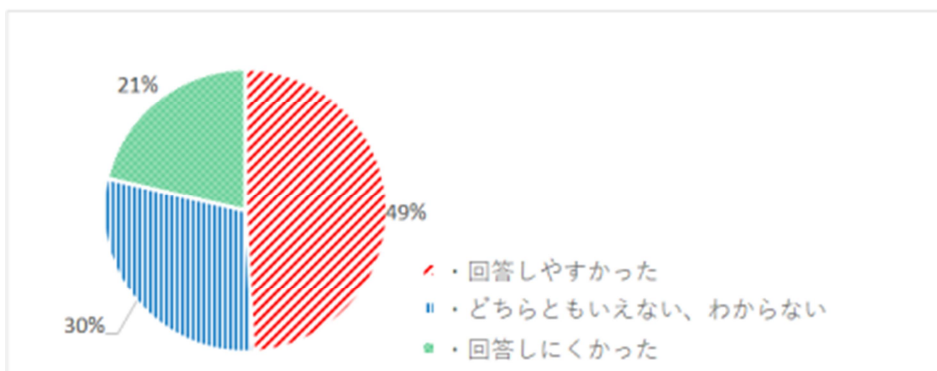


### 4 （3で「自己表現カードに記入したが、使用していない」と答えた人）自己表現で話す内容を、どのように準備しましたか。



### 自己表現後の質問・回答について

- 5 自己表現後の質問・回答について  
自己表現後の質問は、回答しやすかったですか。



実施内容シートについて

様式第1号の1 (入学希望校実施内容シート【一次選抜】) 一次選抜

●●高等学校 ●●●課程 ●●●学科 [ ] コース

教育目標	
育てたい生徒像	
入学希望入方針	

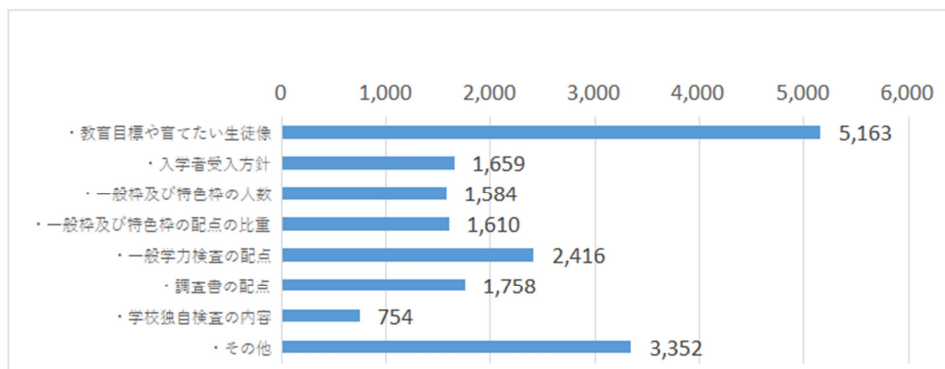
項目	内容	
入学定員	— 人	
種	① 特色種	② 一般種
割合 (人数)	% (— 人)	% (— 人)
配点の比重	一般学力検査 調査書 自己表現 学校独自検査 = : : : ( : : : : )	一般学力検査 調査書 自己表現 学校独自検査 = 6 : 2 : 2 : (600 : 200 : 200 : )
一般学力検査	一般学力検査 <input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 英語 一般学力検査に替えて自校作成問題により実施する学力検査 <input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 英語	
配点	点→ 点に換算 <input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 補料配点・活用教科の設定あり 国語 社会 数学 理科 英語 計	点→600点に換算 <input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 補料配点の設定あり 国語 社会 数学 理科 英語 計
調査書	点→ 点に換算 <input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 補料配点・活用教科の設定あり 国 社 数 理 音 美 図 外 計	225点→200点に換算 ※ 標準のみ 国 社 数 理 音 美 図 外 計 25 25 25 25 25 25 25 25 25
自己表現	点→ 点に換算	点→100点に換算
学校独自検査	実施内容 ・ [ 分 ] ・ [ 分 ] 配点 点→ 点に換算 面接 作文 面接 実技 学力 その他 計 面接 作文 面接 実技 学力 その他 計	
特記事項	学校独自 提出書類 ( ) その他	

6 上記の実施内容シートについて、中学校で紹介はありましたか。



7 志望校選択の判断材料について

志望校を選択する際に、影響を与えたものを次のうちから全て選んでください。(複数選択可)



※ 「その他」のみの回答者数 2,021人

8 7で「その他」を選択した場合は、内容を具体的に記入してください。

(抜粋)

- ・ 部活動
- ・ オープンスクール
- ・ インターネットの情報
- ・ 家族からの勧め
- ・ 友人からの勧め
- ・ 先輩からの勧め
- ・ 塾からの勧め
- ・ 自宅からの距離等立地条件
- ・ 偏差値
- ・ 進学率、就職率
- ・ 学科・コース、学ぶ内容

## 新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について ～市町教育委員会に対するアンケートの結果～

令和6年度広島県公立高等学校入学者選抜において実施した、新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について、市町教育委員会に対して行ったアンケートの結果は、次のとおりである。

### ■ アンケートの期間及び校数

令和6年5月17日（金）から令和6年6月17日（月） 全23市町教育委員会

### ■ アンケートの設問及び結果

#### § 1 実施内容について

- 1 実施内容について、成果と課題等があれば記入してください。（主な回答）
  - ア 一般枠、特色枠（高等学校で実施した配点の比重、学校独自検査等）について
    - 特色枠を設けたことで、各校がどのような生徒を求めているかを知ることができ、生徒が進路選択する上で貴重な情報となった。
    - 一般枠、特色枠の区分や見方が受検者、保護者にとって分かりづらいのではないかな。
  - イ 調査書の簡素化について
    - 調査書が簡素化されたことで、入力事務が軽減された。以前の様式から削除された内容については、入学後の連携で把握することができる。
    - 簡素化により、特別活動等の頑張りを伝えづらくなった面もある。
  - ウ 選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を統合し、一次選抜としたことについて
    - 進路事務の負担軽減につながったが、私学の推薦等もあり、授業時数の確保においてはほぼ変わらない様子であると聞いている。

#### § 2 自己表現について

- 2 自己表現について、成果と課題等があれば記入してください。（主な回答）
  - ア 実際に受検者が行った自己表現の内容について（内容・実施時間等）
    - 入学者選抜における自己表現の実施が一つの目標となり、生徒の資質・能力を育成することの必要性について、各校でより意識が統一されたのではないかな。このことが、総合的な学習の時間等における探究的な学びやキャリア教育等の充実につながっていると考える。
    - 特になし
  - イ 自己表現の質問及び評価について
    - 内容に関する具体的な質問をし、深く聞くことが可能であった。
    - 評価規準が抽象的なため、評価者により評価が異なる可能性があること。
  - ウ 自己表現カードの記入について
    - 自己表現カードの記入時間の短縮が行われたため、終了時刻が前年度よりも早くなり、遠方からの受検者にとっては良かったのではないかな。
    - 当日の受検者の負担を考えると、自己表現カードは廃止、又は事前準備でよいのではないかな。
  - エ 自己表現のタイムスケジュールについて
    - 5分経過時に鈴が鳴る、時間が見える等、統一したルールがあればよい。
    - 特になし



### § 3 日程・時程について

3 日程・時程について、成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)

ア 一次選抜の日程(2月下旬に実施)について

○ 一次選抜にしたことで、授業時数の確保につながった。

● 一次選抜の実施及び合格発表の日が早まったことにより、卒業証書授与式の期日を検討する必要があった。

イ 一次選抜の時程(第1日に5教科の学力検査及び自己表現カードの記入を実施)について

○ 特になし

● 1日目に5教科+自己表現カードの記入があることは受検者側、高等学校側共に過度な負担である。

ウ 二次選抜等の日程・時程について

○ 二次選抜の日程が3月末から少し前倒しになったことにより、特に広島みらい創生高等学校で新年度への準備にかかる負担が減少した。

● 特になし